

AWS オンラインセミナー

中級者向けセキュリティ勉強会

ランサムウエア対策特別編

Yuki Yoshida

セキュリティ勉強会について

セキュリティをテーマに定期開催しています。

- 初級編
 - アカウント保護の考え方
 - セキュリティを担保するうえで考慮すべきポイント
 - NIST Cyber Security Framework
 - 検知のためのセキュリティサービス
- 中級編
 - アーキテクチャに合わせた防御の検討
 - セキュリティ運用の効率化について
- ランサムウェア勉強会
 - 今回実施の内容



- ランサムウェア勉強会 workshop編
 - 開催企画中

今後の勉強会も参加を希望される場合は アンケートに参加希望の旨ご記入ください



自己紹介

名前: 吉田 裕貴 (よしだ ゆうき)

所属: アマゾンウェブサービスジャパン合同会社

ISV/SaaS Solutions Architect

好きな技術領域: セキュリティ、運用の効率化

趣味: 筋トレ、バイク、旅

見習いハンター









What is Ransomware?



ランサムウエアとは

昨今話題になる「ランサムウエア」とは以下のような不正なプログラムを指します。

ランサムウエアとは、「Ransom(身代金)」と「Software(ソフトウェア)」を組 み合わせた造語

▶ 感染したパソコンに特定の制限をかけ、その制限の解除と引き換えに金銭を要求する不正なプログラム (=マルウエア)

2015年以降、パソコンに保存されているファイルを暗号化し復号のための金銭を要求するランサムウエアが多く確認されている

ランサムウエア対策特設ページ(IPA)

https://www.ipa.go.jp/security/anshin/measures/ransom tokusetsu.html



情報セキュリティ 10 大脅威

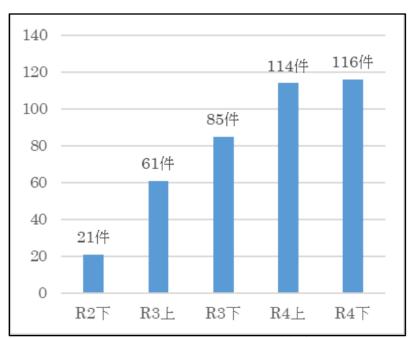
順位	組織に対する 10 大脅威	掲載回数
1	ランサムウエアによる被害	9年連続9回目
2	サプライチェーンの弱点を悪用した攻撃	6年連続6回目
3	内部不正による情報漏えい等の被害	9年連続9回目
4	標的型攻撃による機密情報の窃取	9年連続9回目
5	修正プログラムの公開前を狙う攻撃(ゼロデイ攻撃)	3年連続3回目
6	不注意による情報漏えい等の被害	6年連続7回目
7	脆弱性対策情報の公開に伴う悪用増加	4年連続7回目
8	ビジネスメール詐欺による金銭被害	7年連続7回目
9	テレワーク等のニューノーマルな働き方を狙った攻撃	4年連続4回目
10	犯罪のビジネス化(アンダーグラウンドサービス)	2年連続4回目

情報セキュリティ 10 大脅威 2024(IPA)

https://www.ipa.go.jp/security/10threats/10threats2024.html



国内のランサムウェアの被害報告数は増加傾向、事業継続に影響を及ぼす事案も発生している



企業等におけるランサムウェア被害の報告件数

警察庁サイバー警察局:サイバー事案の被害の潜在化防止に向けた検討会報告書2023 https://www.npa.go.jp/bureau/cyber/pdf/20230406_2.pdf

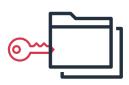
日本国内でランサムウェアが事業継続に影響 を及ぼした事例:

- 港湾物流管理システムの被害 (2023年7月)
- 工場の生産管理システム(2023年3月)

ランサムウエアによるファイルの暗号化







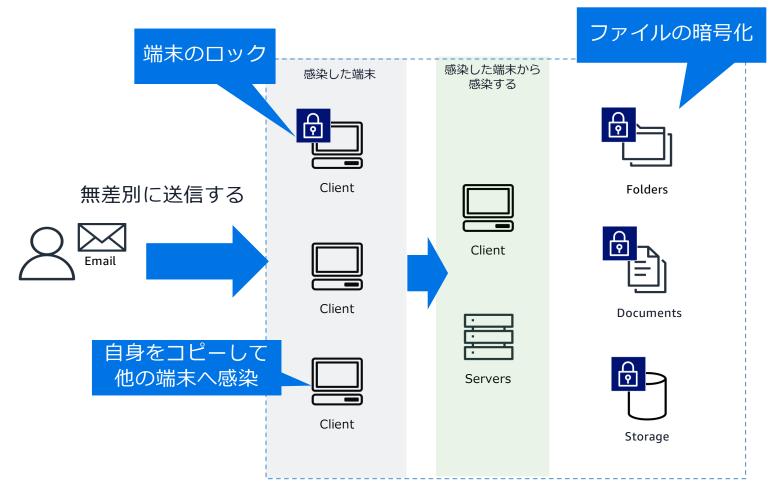


何らかの方 法で侵入 ランサムウェア に感染 感染した端末 上のファイル を暗号化する 端末に脅迫 メッセージを 表示

感染した不正プログラムが端末上のファイルを暗号化し、暗号化されたファイルを復号する 代わりに金銭を支払うように要求する

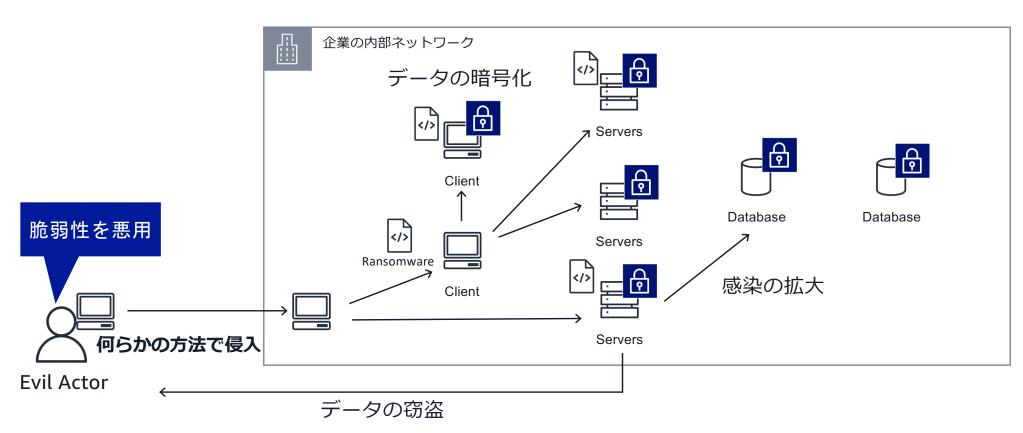


伝統的なランサムウエアの感染経路(例)



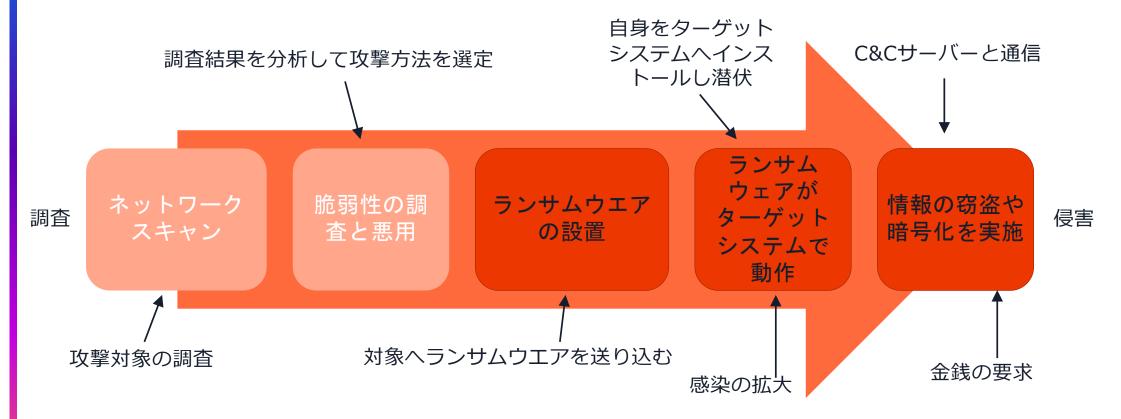


ネットワークを介して感染するランサムウエアの 感染経路(例)



aws

標的を絞ったランサムウエアの感染経路



対象を調査し、脆弱な部分を利用して攻撃を仕掛けます。つまり、これは標準的なサイバー攻撃と同様の感染経路

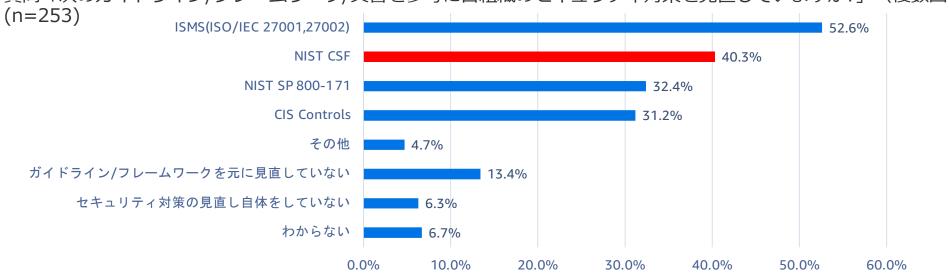
aws

「一般的なサイバー攻撃への対策」は十分でしょうか?



セキュリティ対策の参考にするガイドライン

質問「次のガイドライン/フレームワーク/文書を参考に自組織のセキュリティ対策を見直していますか?」(複数回答)



出所:トレンドマイクロ「法人組織のセキュリティ成熟度調査」を基に作成

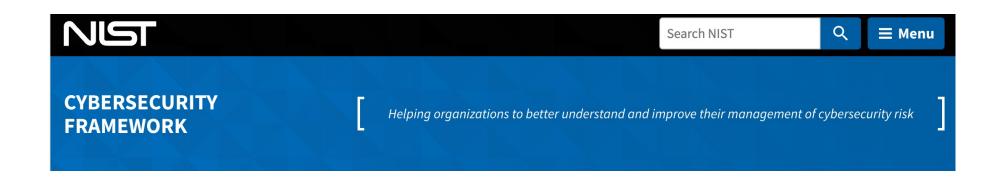
セキュリティのガイドラインに則している

これは、一般的なサイバー攻撃への対策のステークホルダーに対する説明になる



NIST CyberSecurity Framework (CSF)

- ・元々はオバマ政権時代にアメリカの重要インフラのサイバーセキュリティを 強化するために発令された大統領令を受け作成されたガイドライン
- リスク軽減策の確立において汎用的な内容となっているため、 現在は様々な国や組織で利用されている





NIST CyberSecurity Framework (CSF)





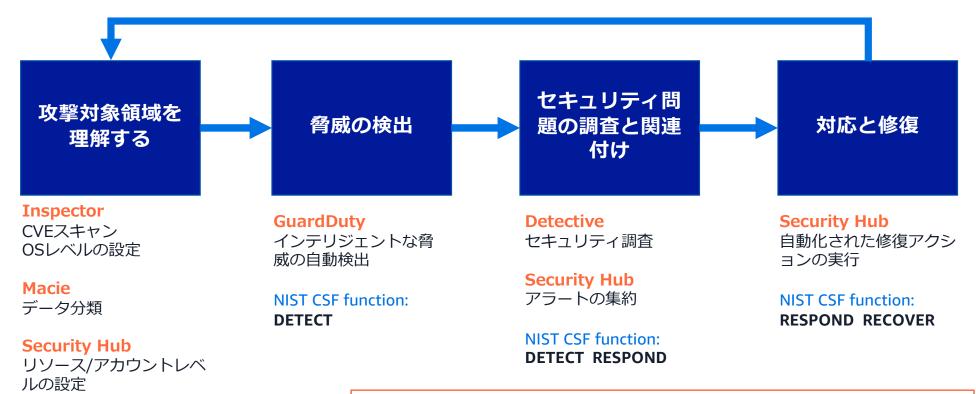
AWS サービスのカテゴライズ

IDENTIFY	PROTECT	DETECT	RESPOND	RECOVER
AWS Security Hub AWS Control Tower AWS Organizations AWS Trusted Advisor AWS Service Catalog AWS Config AWS Systems Manager AWS Well- Architected Tool	Amazon VPC AWS Transit Gateway AWS Key Management Service (KMS) AWS Direct Connect AWS Resource Access Manager AWS Identity and Access Manager AWS Identity and Access Manager AWS Shield AWS Directory Service AWS Directory Service AWS Directory Service AWS Directory Service AWS Certificate Manager (ACM) AWS CloudHSM	AWS Security Hub Amazon GuardDuty Amazon Macie Amazon Inspector	Amazon CloudWatch AWS CloudTrail Amazon Detective Amazon Route 53 AWS Systems Manager AWS Step Functions AWS Lambda AWS Personal Health Dashboard	AWS Backup AWS Elastic Disaster Recovery AWS CloudFormation Amazon S3 Amazon S3 Glacier Snapshot
	AWS WAF Amazon Cognito AWS Network Firewall			



AWSの継続的なセキュリティ監視

AWSセキュリティ体制の継続的改善



NIST CSF functions covered by other AWS services:

- ・ PROTECT AWS Identity and Access Management (IAM)、暗号、エッジ保護サービスなど
- RECOVER AWS Backup

aws

© 2024, Amazon Web Services, Inc. or its affiliates. All rights reserved.

NIST CSF function:

IDENTIFY

AWS のパートナーソリューション

AWS Marketplace



Maintain a secure environment with security tools and cloud security software in AWS Marketplace

Whether you are securing endpoints, identifying vulnerabilities, or safeguarding sensitive data, you can find the security software and security tools you need on AWS Marketplace to enhance protection for your entire Amazon Web Services (AWS) environment with compatible security solutions.

aws partner network service delivery

AWS ISV Accelerate

un-demand webinar

Learn how SOAR helps you streamline security while improving your defenses against cyber attacks

AWS ウェブアプリケーションファイアウォール 概要 特象・ 財金 開始方法 リソース よくお名質問 バートナー
AWS ウェブアプリケーションファイアウォール
(WAF) パートナー
AWS WAF でのベストブラクティスに従うために検証済み
AWS バートナーセールスへのお問い
合わせ

AWS WAF デリパリーバートナーは、セキュリティを危険にさらしたり、アプリケーションの可用性に影響を与えたり、過 類似リソースを消費したりする可能性のある。一般的なウェブの影響性からウェブアプリットラミンを保護するための、 AWS WAF の実施を行う AMS バートナーです。 AMS WAF フまたをデリバリーバーナーと協力することで、ウェブアプリケーションのセキュリティを感化し、SOL インジェクションやウロスサイトスクリプティングなどの一般的な攻撃パケーシをプロップするカスタルルールを特別できます。

AWS WAF Ready パートーは、アプリケーション層のセキュリティソリューションのデブロイと維持のためのシンプルな ソリューションをお客様に発化します。AWS FRoady ソフトウェア製品は、整年な WAF ルールセットと観和ツールを 提供し、お客様は特定のアプリケーションのユースタースにおじて選択することができます。

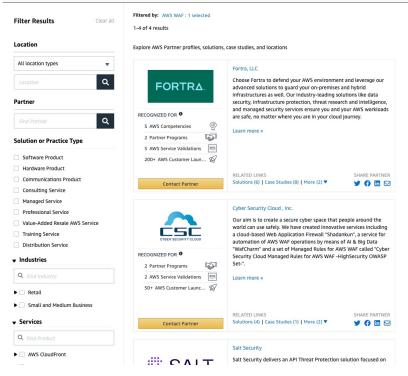
AWS Service Delivery と AWS Service Ready プログラムは、個別の AWS のサービスやソフトウェアソリューションに 関する経験に深い環境がある AWS パートナーを AWS のお客様が特定できるようにするサービスです。 これらのパートナーは、AWS WAF のペストプラクティスに従っていることを確認するための厳格な技術検証に合格しており、また、お客様からの実績を実証されています。

ttps://aws.amazon.com/ip/waf/partners/?pg=cpg&sec=cat&cp=tb&blog-posts-cards.sortv=item.additionalFields.modifiedDate&blog-posts-cards.sort-order=desc

aws

© 2024, Amazon Web Services, Inc. or its affiliates. All rights reserved.





https://partners.amazonaws.com/search/partners/?facets=Product%20%3A%20AWS%20WAF%20%3A%20Advanced%20Threat%20Detection%20%26%20Mitigation

データ保護の実践

重要なデータを特定する

データへのアクセスを管理・制御する データの暗号化を導入する 自動化されたデータ保護を導入する

Data Protection

データガバナンスとコンプライアンスの実践 モニタリングとアラートの導入

バックアップと復旧手段の計画 DR・BCPのプラン策定

ランサムウェア復旧手段の計画

AWS サービスのカテゴライズ

IDENTIFY		
AWS Security Hub		
AWS Control Tower		

AWS Organizations

AWS Trusted Advisor

AWS Service Catalog

AWS Config

AWS Systems Manager

AWS Well-Architected Tool

PROTECT

Amazon VPC

AWS Key Management Service (KMS)

AWS Secrets Manager

AWS Firewall Manager

AWS Identity and Access Management (IAM)

AWS Shield

AWS IoT Device Defender

AWS IAM Identity Center

AWS WAF

AWS Network Firewall

AWS Transit Gateway

AWS Private Link

AWS Direct Connect

AWS Resource Access Manager

Amazon Cloud Directory

AWS Directory Service

AWS Secrets Manager

AWS Certificate Manager (ACM)

AWS CloudHSM

Amazon Cognito

DETECT

AWS Security Hub

Amazon GuardDuty

Amazon Macie

Amazon Inspector

RESPOND

Amazon CloudWatch

AWS CloudTrail

Amazon Detective

Amazon Route 53

AWS Systems Manager

AWS Step Functions

AWS Lambda

AWS Personal Health Dashboard

RECOVER

AWS Backup

AWS Elastic Disaster Recovery

AWS CloudFormation

Amazon S3

Amazon S3 Glacier

Snapshot

※NIST Cyber Security Framework をもとに AWS サービスをカテゴライズしたもの



Amazon VPC Network Access Analyzer

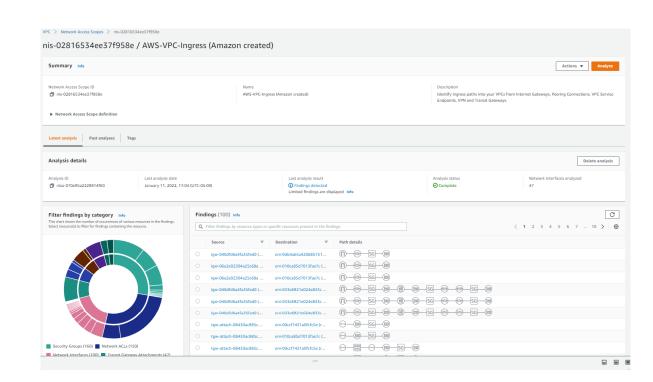


Amazon VPC Network Access Analyzer

AWS上のリソースへの意図しないネットワークアクセスを特定する機能

Network Access Analyzer のユースケース

- ネットワークのセグメンテーションがど うなっているか?
- インターネットへの疎通の確認
- ネットワーク・パスの確認
- ネットワーク・アクセスの確認





Amazon Inspector



Amazon Inspector

自動化された脆弱性管理サービス



AWSのワークロードを継続的にスキャンしパッケージの脆弱性や意図しないネットワーク露出領域を継続的なスキャンで検出する脆弱性管理サービス





Amazon Inspector の検出結果のタイプ

パッケージの脆弱性 - 検出された Amazon EC2 インスタンス、Amazon ECR コンテナイメージ、Lambda 関数のソフトウェアパッケージをスキャンして検出した脆弱性に該当する CVE (Common Vulnerabilities and Exposures) を示す

ネットワーク到達性 - Amazon EC2 インスタンスへの許可された ネットワークパスがあるかどうかを示す。インターネットゲートウェイ、ロード バランサー、VPC ピアリング接続、仮想ゲートウェイを介した VPN などの VPC から到達可能かどうかスキャンする

Amazon Inspector が備える脅威インテリジェンス

脅 威 インテ リジェンス を 活 か して 、 優 先 順 位 付 け や 、 対 策 検 討 へ とつ な げ て い く

CVSS(共通脆弱性評価システム)

脆弱性の深刻度を示す評価手法で、10.0が最高

EPSS(Exploit Prediction Scoring System)

今後 30 日間で脆弱性が悪用される可能性を表現した FIRST が運用するスコア(0.99->99%)

CISA KEV カタログ

米 CISA が運用する、既知の悪用された脆弱性 (Known Exploited Vulnerability)の情報 対象政府機関に期日までの対応を義務付け

既知のマルウェア

脆弱性を悪用する既知のマルウェアの一覧

MITRE ATT&CK

敵対的な活動で用いられる戦略・技術・手続を 分類し、手口の分析に役立てるフレームワーク

各種エビデンス

以下のような様々な関連情報

- 既知の Exploit/PoC コード
- マルウェアによる悪用情報



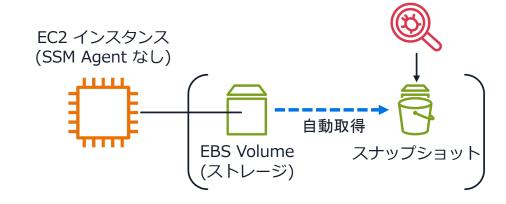
EC2 インスタンスのエージェントレススキャン

ネットワーク構成に依存しないスキャンにより、さらに幅広いワークロードが対象に

 従来は AWS Systems Manager Agent(SSM Agent) および NW レベルでの到達性を確保した構成 が対象だった



今後は SSM Agent を導入してい ない場合は、EBS のスナップ ショットに対してスキャンを行う こともできるように



Amazon GuardDuty



Amazon GuardDuty

AWS が提供するマネージド脅威検出サービス



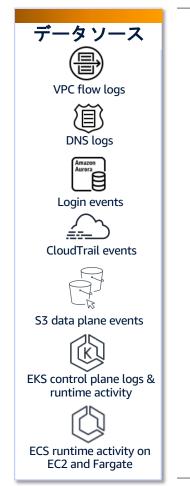
- AWS 上のリソースと AWS のアカウントに対する脅威を検出^{*1}
- 有効化のみで AWS が提供するメカニズムを利用 して脅威検出を開始可能
- AWS が継続的に開発し機能改善の恩恵を受ける ことができる

Amazon GuardDuty

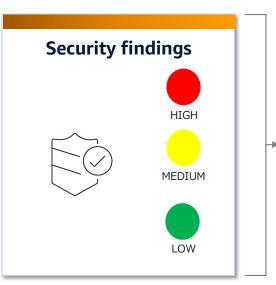
※1 AWS Identity and Access Management (IAM) や Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) バケットなど、AWS 上のリソースに対する疑わしい挙動



GuardDuty の脅威検出フロー









Amazon GuardDuty の拡張機能



S3 Protection

S3 バケットに対する オブジェクトレベルの API オペレーションを モニタリング



EKS Protection

EKS クラスターとコン テナランタイムについて 不審なアクティビティや 侵害の可能性を検出



Malware Protection

マルウェア感染の可能性 がある検出をした場合、 または任意のタイミング で EBS ボリュームの スキャンを実施



RDS Protection

Amazon Aurora データベースへのアク セスアクティビティを モニタリング



Lambda Protection

Lambda 関数の不審な アクティビティを モニタリング



AWS Fargate を含む ECS クラスターと Amazon EC2 についてファイルアクセス、プロセス実行、ネット ワーク接続などのランタイム動作を可視化

Runtime Monitoring



Guard Duty Malware Protection の対象範囲

Amazon EC2 対象範囲

Amazon EC2 instances



Amazon Elastic Container Service (ECS) EC2 起動タイプ



Amazon Elastic Kubernetes Service (EKS)



Amazon EC2 上で独自に 管理しているコンテナ



マルウェアスキャンの 実行タイミング

- GuardDuty が<u>潜在的に感染した可能性</u>の ある Amazon EC2 インスタンスの活動を 検知すると自動的にスキャン開始
- 一つの EC2 インスタンスにおけるスキャン間隔は24時間。GuardDuty による検出が複数回あったとしても、前回のスキャンから 24 時間未満であれば追加のスキャンは開始されない
- オンデマンドスキャン。設定は不要で、 任意のタイミングで、スキャンする Amazon EC2 インスタンスの Amazon ARN を指定してスキャン開始



Amazon GuardDuty Malware Protection for S3

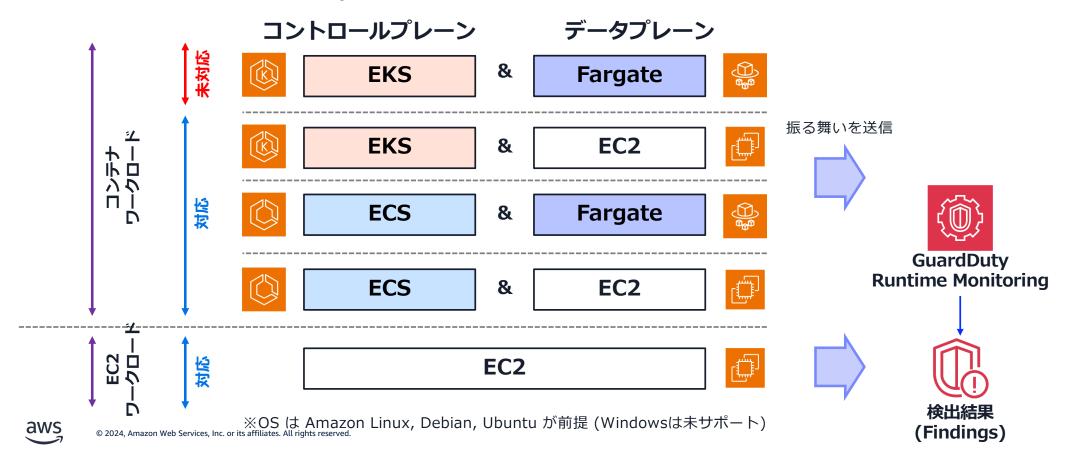


特定の S3 バケットへの悪意のあるファイルの アップロードを検出するための GuardDuty Malware Protection の拡張機能

S3 バケットにアップロードされた新しいオブジェクトにマルウェアがないか継続的に評価し、見つかったマルウェアを隔離または排除するためのアクションを実行可能

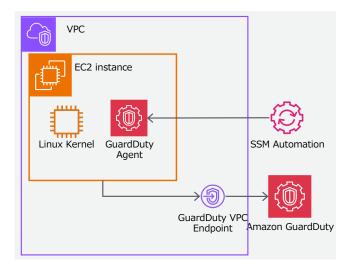
GuardDuty Runtime Monitoring

GuardDuty Runtime Monitoring は、下記対応ワークロードにおける 振る舞いを GuardDutyエージェント を通じて収集し、検出結果を生成



GuardDuty Runtime Monitoring – EC2

Amazon EC2 のランタイムに関する脅威を検出 Amazon EC2 ワークロードの脅威検出範囲を拡張 ホスト上の OS レベルのアクティビティを可視化 インストールされたエージェントによるスキャン 対応 OS は Amazon Linux 2 / 2023



脅威検出例

C&C への不正な通信をネットワークで検出 (基本機能) マルウェアプロテクションで実行ファイルを検出 (Malware Protection) **実行プロセスをランタイムモニタリングで検出 (Runtime Monitoring)**



Route 53 Resolver DNS Firewall



Route 53 Resolver DNS Firewall – Features

ROUTE 53リゾルバのファイアウォール



DNSフィルタリング

- ・ドメイン名ベースの フィルタリング
- 拒否リスト、許可リスト
- カスタム拒否アク ション



マネージドルール

- ・AWS が管理するドメイン名 ベースのリスト
- ・ 利用可能な 3 つのオプション
 - 集約リスト
 - ・マルウェア
 - ・ ボットネットのコマンド&コント ロール(C&C)
- Recorded Future との脅威 インテリジェンス連携



中央管理

- ・ AWS Firewall Manager を使用したクロスアカウ ント管理
- ・ポリシーの一貫した実施
- ・ルールの可視化と管理
- ・AWS Resource Access Manager (AWS RAM) を 使用したルールの共有



可視性とレポート

- ・ルールごとの Amazon CloudWatch メトリクス
- Amazon S3、
 CloudWatch、Amazon
 Kinesis にログの送信が可能



AWS Managed Domain Lists





- ・ 定期的な更新
- 集約リストとDNS脅威カテゴリリスト マルウェアとボットネットC&C
- 複数のDNS脅威から一度に保護する集約リスト

DNS threat protections

マルウエア

C&C

DNS トンネリング

ボットネット

暗号通貨のマイニング

…など

フィッシング

DGA

AWS Network Firewall



AWS Network Firewall



AWS Network Firewall

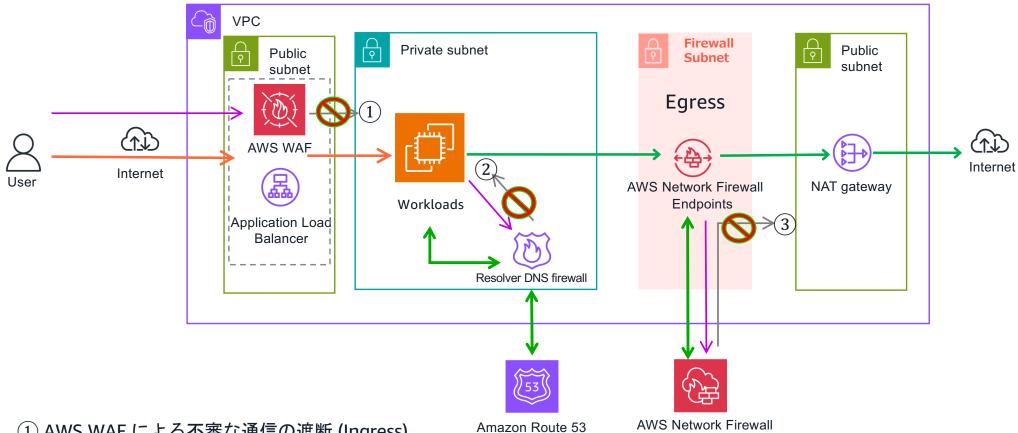
- きめ細かい制御による柔軟な保護
- ・ VPC とアカウントにわたり一貫したポリシー管理
- ・ 高可用性のマネージド型インフラストラクチャ
- AWS マネージドルールグループの利用が可能



AWS マネージドルールグループ

- 追加料金なしで利用いただけるルール
- 新たな脆弱性や脅威が確認された際に AWS により自動的にアップデート
 - 一日から一週間に1度ほどのペースで更新される
 - 場合によってはプライベートコミュニティからの脆弱性情報を元に、新たな脅威が一般公開される前にルールグループを更新する場合もある
- マネージドルールグループが更新された場合 SNS トピックに通知が行われる
- <u>Domain list rule groups</u> と <u>Threat signature rule groups</u> の 2 種類を提供
 - Threat signature rule は Suricata 互換ルールを開示しており、利用者が内容をコピーして変更することが可能(過検知を発生させる特定のルールを除外するなど)

導入パターンの一例



- AWS WAF による不審な通信の遮断 (Ingress)
 Route53 Resolver DNS firewall による不審な DNS フィルタリング (Egress)
- AWS Network Firewall による不審な通信の遮断 (Egress)

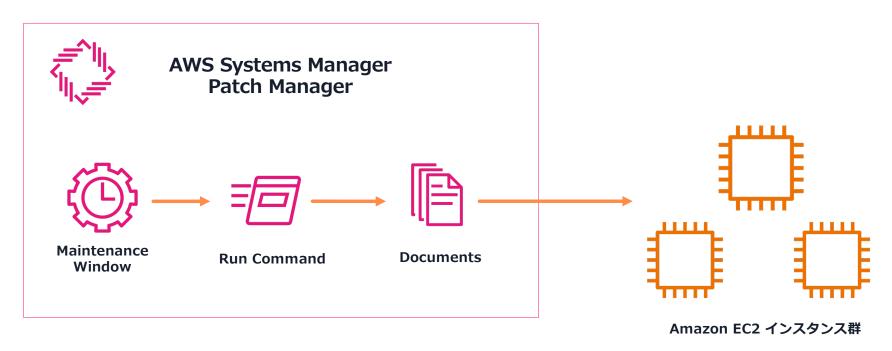
aws

AWS Systems Manager



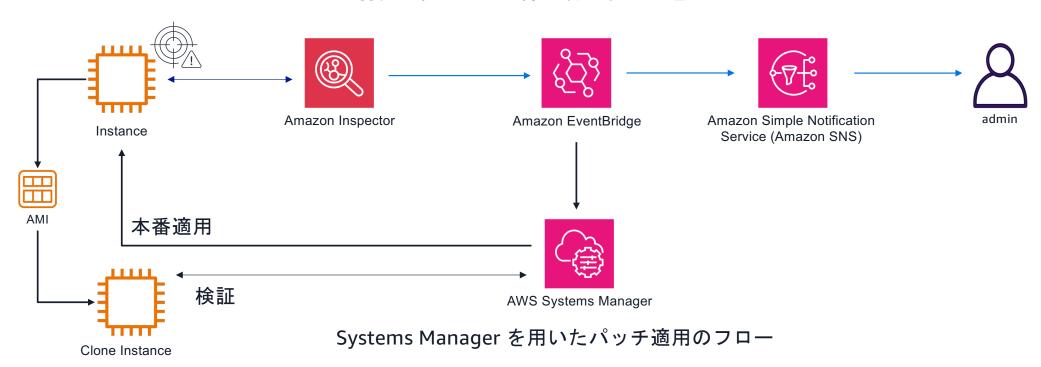
定期的なパッチ適用

 AWS Systems Manager Patch Manager を活用して定期的に パッチを適用



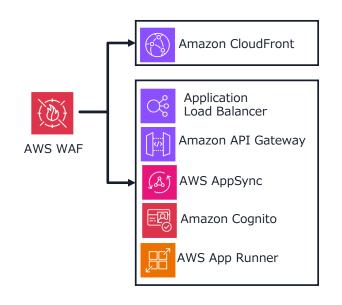
脆弱性の検知とパッチ適用のフロー

脆弱性が検知された際の管理者への通知フロー



Systems Manager を用いることで緊急パッチ適用や定期定期なパッチ適用が可能

パッチ適用の時間稼ぎに WAF を活用する



スムーズなセットアップ: 既存のアーキテクチャを変更 せずに導入可能、TLS/SSL や DNS 設定も不要

Bot Control の統合: AWS が管理するボットルールを 有効にして、一般的なボット、標的型ボット、アカウン ト乗っ取りボットからの保護を実現

マネージドルールとカスタムルール: あらゆる受信リクエストをレイテンシーの影響なく検査する柔軟性の高いルールエンジン

サードパーティのルール: 業界をリードするセキュリティパートナーのルールをマーケットプレイスから選択して、AWS Web ACL に簡単に追加が可能

ウェブアプリケーションを、アプリケーションの可用性、セキュリティの侵害、 リソースの過剰な消費などに影響を与えかねない一般的なウェブの弱点から保護 するウェブアプリケーションファイアウォール

AWS Backup



バックアップボールト

セキュリティ強化の為の設定

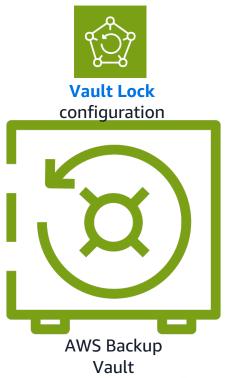




- 論理構成 バックアップボールトは AWS Backup が管理するバックアップデータを保管するためのリソースです。
- アクセス管理 IAM によるリソースレベルのパーミッションと、 バックアップごとにパーミッションを分けることができます。
- 暗号化 -各ボルトに CMK またはサービス固有のデフォルトキーを 使用します。
- 誤った削除からの保護 ボールトのデータは各サービスから見えますが、vault access policy によって管理されています。

AWS Backup Vault Lock

悪意ある行為や意図しない削除からバックアップを保護

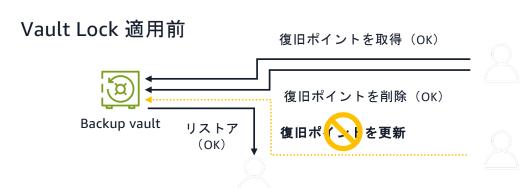


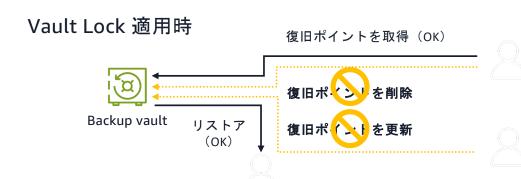
- VAULT の有効化 AWS Backup Vault のレベルで Vault Lock の設定を有効にします。
- 削除からの保護 ルートアカウントを含むどのユーザーも、バックアップ を削除することはできません
- バックアップ設定変更に対する保護 -ルートアカウントを含むどのユーザーも、バックアップの保存期間を変更したり、バックアップのコールドストレージ設定への移行を更新したりすることはできません



© 2024, Amazon Web Services, Inc. or its affiliates. All rights reserved.

AWS Backup Vault Lock

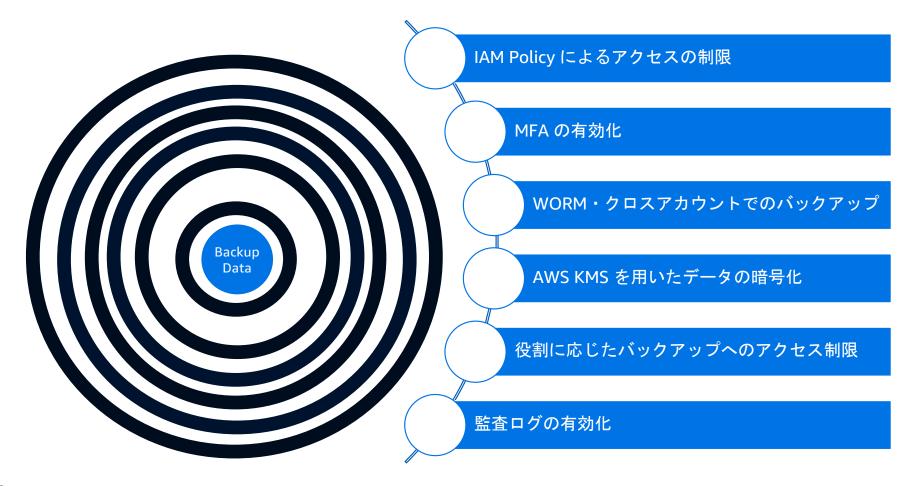




Backup vault 単位で設定することができ、復旧ポイントの削除を防止することができる Amazon S3 のオブジェクトロックと同様に、リーガルホールドが設定できる

Vault Lock モード	特徴
ガバナンスモード	ガバナンスの効いた「データ保護」を提供する 特別な権限では、WORM 保護された復旧ポイントの削除ができる
コンプライアンスモード	「コンプライアンス」の目的で利用する いかなるユーザーも上書き/削除/設定の変更ができない 適用が開始されるまでの猶予期間を設定できる

バックアップデータに対する多層防御の構築



AWS Well-Architected



AWS Well-Architected Framework(W-A) とは?

システム設計・運用の"大局的な"考え方と ベストプラクティス集

・AWS のソリューションアーキテクト (SA)、





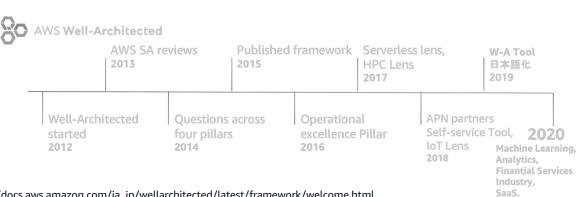


FTR Lens

パートナー様、お客様の 10 年以上にわたる

経験から作り上げたもの

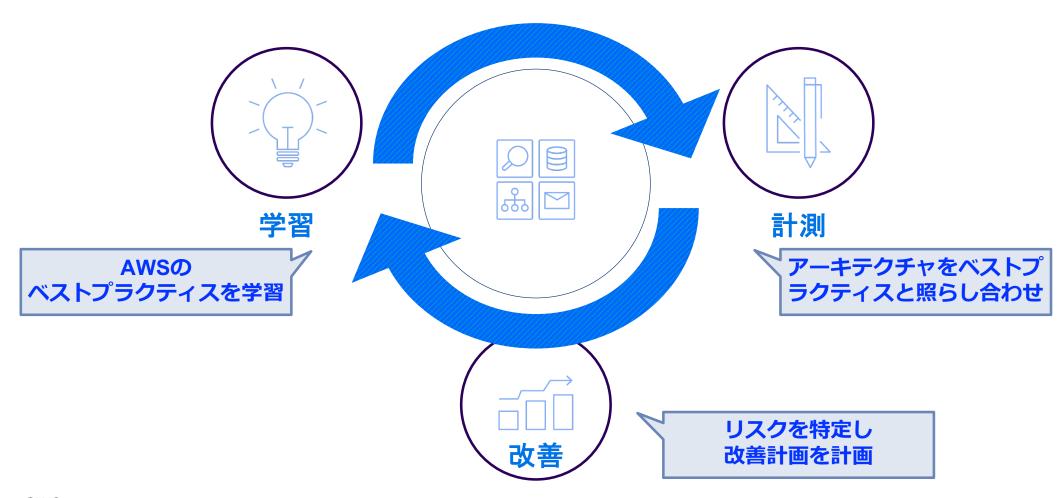
AWS とお客様と共に、 W-A も常に進化し続ける



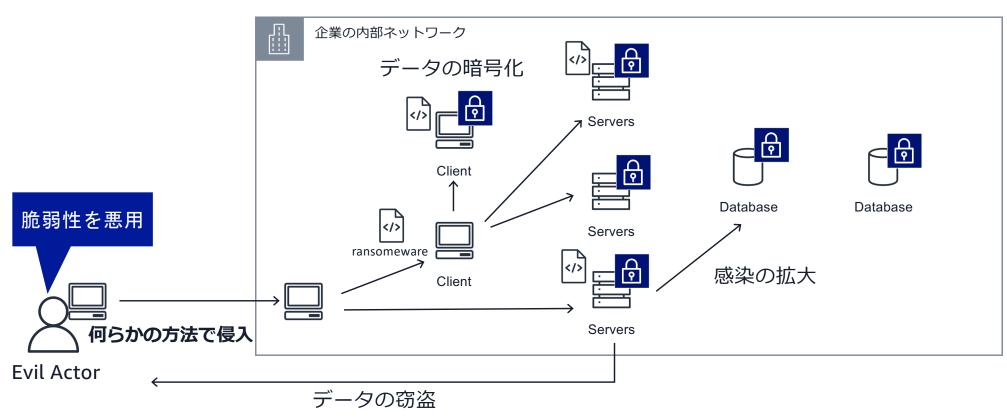
aws

https://docs.aws.amazon.com/ja_ip/wellarchitected/latest/framework/welcome.html

W-A Framework Review - レビューサイクル



ネットワークを介して感染するランサムウエアの 感染経路(再掲)



aws

クラウドのメリットを活用する

Amazon GuardDuty はネットワーク内部に侵入したマルウエアが他の端末に感染可能か調査を行った際にアクティビティを検知できます。

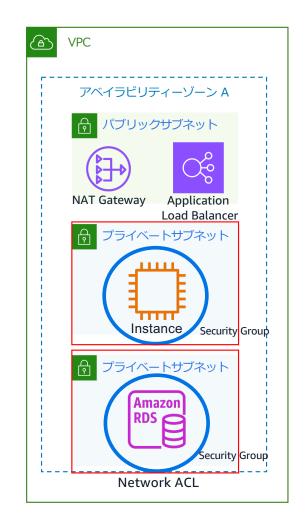
Security Group や Network ACL を活用することで瞬時に通信の制御を行うことができるため、 AWS の自動化ツールを組み合わせて対応を行うことで被害の拡大の封じ込めが可能になります。













今日から実践するランサムウエア対策

AWS Config を活用して守る べき資産を把握 する S3 バケットのバー ジョニングを有効 にする

AWS KMS を用い た暗号化の実践

IAM のベストプラ クティスを実施す る AWS Security Hub 活用して セキュリティイ ベントの発生を 迅速に検知する

復旧作業の優先 度を決める AWS Step Functions を 活用して自動化 された被害の拡 大の封じ込めを 行う AWS Backup を活用してバッ クアップを行う

リカバリーのプ ロセスをテスト する

AWS Well-Architected Tool を活用して AWS のベストプラクティスを実施する

Thank you!

ご視聴ありがとうございました。

アプリケーションを終了すると本セッションのアンケートが表示されます アンケート記入にご協力ください 今後の勉強会も参加を希望される場合はアンケートに参加希望の旨ご記入ください

アンケートは5段階評価となっており、「5」からの減点評価での入力をよろしくお願いします



Appendix



参考資料

参考資料

- Protecting your AWS environment from ransomware
- AWS Blueprint for Ransomware Defense
- Protecting against ransomware



AWS SECURITY

Protecting your AWS environment from ransomware

AWS Blueprint for Ransomware Defense

First published May 11, 2023 Last updated November 20, 2023

aws

